



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

令和3年1月25日 第10巻(第2号)

発行：東京都新宿区住吉町8-20 四谷チンゴビル2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

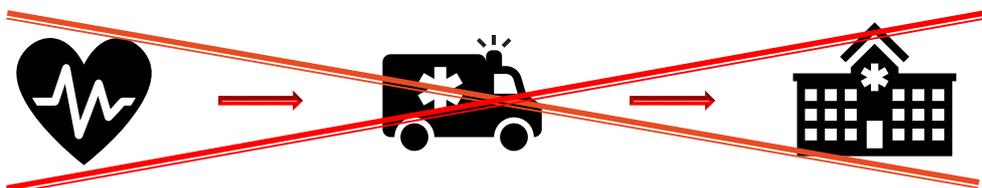
巻頭言

1. 夢と希望の会について
2. 東日本大震災被災地石巻市における10年の
ソーシャルワーク実践活動検証プロジェクト活動報告Ⅱ
3. いしのまき支援連絡会に参加して
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

編集後記

新型コロナウイルス感染症拡散中

徹底した予防生活で日々元気に過ごしましょう！！



◇ 巻頭言



石巻事務所 現地責任者 福井 康江



(2021年1月日和山鹿島御子神社から見た石巻湾)

2021年新しい年明けとなりましたが、昨年からの世界的なコロナ禍の中、たくさんの命が失われ、危機に瀕し、多くの人々が困難な日常を強いられています。そして保健医療福祉の現場に携わる方々のご苦労は想像に余りある状況が続いています。誰もが年頭に際しこうした状況が変わることを、本当に良い年になることを心から祈ったことと思います。

ここ石巻でも感染拡大防止の理由から、復興住宅の集会所が閉鎖となり、やっと軌道に乗ってきたサロン活動や行事が中止され、自宅にこもりがちとなったことで心身共に不調となることを心配してきました。しかし「復興住宅に入居してからやっとできてきたつながりを閉ざしたくない」「こんな時だからこそやらなければならないことがある」「あの人は大丈夫だろうか」と言った声がたくさん聞こえてくるようになりました。住民の方々の我慢強さを本当に感じたことと併せて、なんとも力強いこうした言葉に私達も背中を押され始めています。震災に遭い困難な避難生活を経たことが、今大きな経験として生かされようとしています。

また、毎年この時期になると、震災後我慢することが続いていた子ども達がどんな日々を過ごしながら、どんな未来を望みながら成人式を迎えたのだろうかとの思いを馳せ、成人の日のニュースに耳を傾けるようにしていますが、今年は震災当時4年生だったという大川小学校を卒業した新成人の方が、「看護師を目指しています」と笑顔でインタビューに答えていたニュースを観て、大きな安堵感を感じたと共に逆にエールをもらいました。

もうすぐ震災から丸10年となります。私達もまた新しい一歩を歩み出したいと思います。

大川小学校の校庭の野外ステージの外壁に描かれた宮澤賢治「銀河鉄道の夜」をテーマにした絵とメッセージ



1. 夢と希望の会について

石巻事務所 現地担当 軍司智之

「この歳になって希望なんて…」 「希望が一番いい言葉！」

『石巻の女(いしのまきのひと)』の歌詞に夢という言葉が入っている。」

“夢を待とうよ、夢を待とうよ今に来る”

※『石巻の女』 歌手：北美幸二 作詞：加藤省吾 作曲：田宮伸一、金丸幸一

「かっこいい！ どうしよう… いろんな人が入りたいてって言ったら！」

「(夢と希望の会) それでいいんじゃない！」

そんな会話から『夢と希望の会』と名称が決まり、2018年7月から2020年12月までに活動は19回開催された。

夢と希望の会の目的は“地域で生きがいをもって健康的に生活を送る一助になるよう、参加者同士の交流を主とし、参加者が自主的・自発的に支え合える活動となることを目指す”としている。この目的を達成するために“夢と希望の会を作るにあたっての6か条”なるものがある。

1. 参加者をお客さんにしない「みんなが主役」
2. 出入りは自由「お気軽にどうぞ」
3. 費用をかけずに楽しむことも大切
4. 参加者を増やすより、長く続けることが大切
5. 負担を軽くしましょう
6. やりながら、自分達に合うやり方をみつけよう

いずれにしても楽しく交流ができ、一緒に話をすることや聞くことを通じて、お互いに情報発信・共有できる集いの場を目指して作られたルールだ。そして、この6か条には他者と

の交流により自分なりの役割を再確認し、生きがいをもった生活が送れるように願いを込めている。

活動内容はこれまで花火観賞、ポッチャ、釣り、料理、カラオケ、体操等々企画してきた。会場の準備や新たに加わる参加者への声かけ等できることを率先して動き、周りも追従するように活動を進めていく。料理が得意な人、歌が上手な人、会話がユーモラスな人等それぞれの持ち味が活かされ、活動の終わりの時間が迫ってくると「今日も楽しかったな。」「特に何か話すこともなかったが、みんなで集まるといろいろな人の話が聞けていいもんだな。」等の感想が聞こえてくる。また、活動内容の感想だけではなく復興住宅内での人間関係、自治会活動等の情報交換の話しも聞こえてくる。活動に関わっているソーシャルワーカーとして夢と希望の会の目的を果たせていると実感できる瞬間でもある。

そもそも、夢と希望の会の参加対象者は“中高齢の独居男性”としている。では“中高齢”とは何歳をさすのかという質問が飛んできそうだがここでは濁らせておく。ただし、なぜ参加対象者を“中高齢の男性”としたかについては次のような背景がある。甚大な被害をもたらした大震災により家族や財産を失い、住んでいた地区が壊滅状態となりコミュニティも分断された。避難所、仮設住宅、復興住宅等へと生活の拠点を転々としていくうちに持病の悪化、経済困窮、頼れる人間関係の希薄化等が問題として浮き上がってきた。ご近所どうしの交流を目的に仮設住宅に入居時、様々なイベントが催されたが日中参加できるのは在宅している中高齢の世帯であった。特に参加者は男性より女性のほうが多く、男性一人で参加するのは気が引けるといった声があった。

このような状況から“中高齢の男性”を対象に体を動かす機会や困りごと等をお互いに情報を共有できる集いの場として男性限定の企画をするようになった。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により活動は一変した。2020年3月は石巻市内で感染者はいないものの活動開催は自粛し、4月7日の緊急事態宣言を受け自粛を継続。6月よりようやく活動再開した。3カ月ぶりに開催し、お寿司を食べながら2020年度の活動計画について話し合い7月から活動開始と思った矢先に市内で感染者が出たとの情報があり、さらに2カ月自粛。思うようにいかずやきもきした。見えないウイルスを相手に不安は高まり、屋内にこもりがちな生活が数カ月続いている。とはいえ、このまま手をこまねいては鬱々とした気分になる一方だ。できうる限りの感染対策を徹底し、屋外で活動を再開しようと思い立ち、参加者の意見を募った結果10月に“女川町での海釣りとお散歩”を企画することとなった。当日はこれまでの鬱憤を晴らすような快晴。予想どおり大漁(?)であったため、気分良く海風を浴びながら昼食をとることができた。参加者の一人から「海に泣かされたこともあったが、海はいいもんだな」と呟く声が印象的であった。

予想もしなかった大震災を経験し、さらに新型コロナ禍で活動をどのように継続していくか今なお模索している。ただ、この困難な状況に立ち向かうべく参加者の方々と“夢と希望”を共有し、一緒に過ごす大切な時間を作っていきたい。



2020年11月17日に開催された
夢と希望の会の様子
講師をお招きし、“いきいき100歳
体操”を行いました

2. 東日本大震災被災地石巻市における10年の
ソーシャルワーク実践活動検証プロジェクト活動報告Ⅱ

石巻事務所 現地担当 平野裕司

[公益社団法人みずほ福祉助成財団 2020年度社会福祉助成金事業研究助成決定](#)

2020年4月より始めました『東日本大震災被災地石巻市における10年のソーシャルワーク実践活動検証プロジェクト』ですが、この度公益社団法人みずほ福祉助成財団より2020年度社会福祉助成金事業研究助成（90万円）をいただけることとなりました（助成内容「東日本大震災におけるソーシャルワークの縦断的研究～障害者支援を焦点に～」）。

〔本研究の概要〕

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、被害の大きかった岩手県、宮城県、福島県の3県で2017年2月28日までに15824人の人命が奪われました。うち主要被災3県（岩手、宮城、福島）沿岸部の27市町村を対象に行われた調査によると、総人口に占める死亡率は1.03%。これに対して、障害者の死亡率は2.06%（2012年9月5日NHK Eテレ1）となっており、災害が発生した際の障害者の避難の問題が指摘されています。また、障害者は2次被害を受けやすいことが明らかになってきており、災害関連死予防の重要性が指摘されています。しかし、災害関連死は発災から10年が経過しようとしている今日、ますます深刻化してきています。その背景には①障害者を支える家族の高齢化、②障害者を対象とした支援体制の乏しさ、③社会資源（住まい、働く場、相談を含む人的な支援体制など）の少なさがあると考えられます。さらには、ステージ毎に生活環境（避難所・仮設住宅・復興住宅等）も変容することから、抱える生活課題の変化、それを解決するために支援する家族・住民・支援者の変化も大きな影響を与えることが明らかになってきました。

したがって、本研究では発災直後から復興期（今日）に至るまでの長期的な生活再建を視野に入れた、障害者支援のためのソーシャルワーク実践のあり方を明らかにすることを目的としました。

具体的には、日本医療社会福祉協会が東日本大震災の被災地石巻で 10 年間行ってきたソーシャルワーク実践内容を縦断的に分析し、ステージ毎に求められる障害者支援のためのソーシャルワーク実践に必要な視点やスキル、およびアセスメントのポイントを明らかにするとともに、防災を含め災害時・日常生活を営む上で重要となるソーシャルワーク・サポートネットワーク構築のためのプログラム開発を行います。

〔進捗状況〕

第 1 回：2020 年 6 月 26 日（金）当協会石巻現地事務所にて開催。災害時ソーシャルワークのあり方について勉強・議論しました。

第 2 回：2020 年 6 月 29 日（月）当協会石巻現地事務所にて開催。研究助成金の申請について確認・検討しました。

第 3 回：2020 年 7 月 27 日（月）当協会石巻現地事務所にて開催。石巻現地のこれまでの活動を報告するとともに、大橋謙策アドバイザーより分析方法について講義していただきました。また、翌 7 月 28 日（火）には門脇地区を視察。門脇地区で生活する福祉協力員の方のお話を伺いました（大橋謙策アドバイザー・笹岡眞弓統括来石）。

第 4 回：2020 年 9 月 25 日（金）当協会石巻現地事務所にて開催。ケースファイルの整理及び明らかになった事項について報告し、参加者でディスカッションしました（大橋謙策アドバイザー来石・西田知佳子アドバイザー欠席・笹岡眞弓統括来石）。

第 5 回：2020 年 10 月 23 日（金）当協会石巻現地事務所にて開催。復興期の支援状況を中心に報告。また、公益社団法人みずほ福祉助成財団助成研究計画の確認及び見直しを実施しました（大橋謙策アドバイザー来石・西田知佳子アドバイザー・笹岡眞弓統括来石）。

第 6 回：2020 年 11 月 20 日（金）当協会石巻現地事務所にて開催。応急期（遊楽館での福祉的避難所）、復興期（2013 年以降）の分析を中心に報告。ディスカッションしました（大橋謙策アドバイザー・西田知佳子アドバイザー欠席・笹岡眞弓統括・坪田まほ事務局長来石）。

※8 月・12 月については新型コロナウイルス感染拡大に伴い、石巻現地事務所での開催を見送りました。

〔今後について〕

定期的に打ち合わせ、分析結果の（内部）報告等行いながら進めていきたいと思っております。また、7 月号でも書きましたが、過去に石巻現地事務所に勤務されていた方に当時の活動状況等についてヒアリングさせていただくこともあるかと思っております。その際は何卒よろしくお願いたします。

石巻市における 10 年のソーシャルワーク実践活動検証プロジェクトについては、第 10 巻にも掲載され

ております。下記 URL より閲覧可能となっておりますのでご参照ください。
(http://www.jaswhs.or.jp/upload/EJBE_News/1074_EJBE_News.pdf)

3. いしのまき支援連絡会に参加して

石巻事務所 現地担当 大垣晴香

最初にいしのまき支援連絡会とは「石巻地域で被災者支援のために活動しているボランティア・NPOなどの団体が参加し、各団体の活動状況・事業周知などの情報提供や、復興支援に関わる勉強会などを実施し、支援の方向性や相互協力・関係性の構築を目的とする」ことが趣旨となっております。

2020年11月20日にいしのまき支援連絡会が開催され、参加してきました。社協CSC（地域福祉コーディネーター）やベビースマイル石巻の職員の方の事例発表をともに、石巻市における事業連携の可能性について、グループに分かれディスカッションを行いました。

事例発表では、社協CSCが地域の子どもや学校民生委員などを通して学校行事への協力や、イベントの開催を行っており、そういった横や縦のつながりを作ることで仲間づくり・連携になること、また町内会や福祉協力員の仲間とともに見守り活動を行い、地域からの孤立を防止することができることの発表がされました。その他子育て支援について、妊娠期からの切れ目のない子育て支援事業の発表があり、多世代の交流の場づくりを行っている事業所があることを知ることができました。

グループディスカッションで私のグループには3.11 みらいサポート・社協CSC・ベビースマイル石巻の職員の方々がおられ、多種多様な観点から事業連携について話し合いがなされました。どんなことが地域の人とのつながりに変わっていくのか、現在行っていることでも少し視点を変えることでできることが増えて行く可能性があることを学ぶ機会となりました。石巻市に来て初めて様々な機関の職員と話をする機会となったためとても新鮮な気持ちで参加することができました。

4. 災害支援チームからのお知らせ

お 知 ら せ

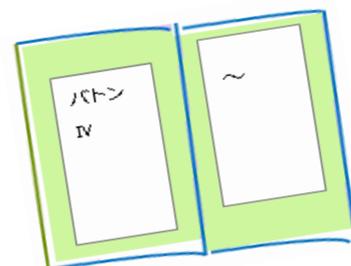
「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの

支援のバトン

I ～ IV が発売されています！！

詳細は、協会ホームページ

及び 下記【1. 書籍販売】をご覧ください。



【1. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』

の販売を行っています！



発災から 2011 年 9 月 30 日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 12 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年 1 月から 2014 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この 5 月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014 年 4 月から 2016 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・

仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

ボタンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

ボタンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50

ボタンⅢ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

ボタンⅣ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59

【2. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願ひいたします。

URL:<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【3.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。」



URL:<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4..feature=youtu.be>

5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定 令和3年3月（暫定）

（お知らせ：令和2年度は不定期での発行となりました。）

◇ 編集後記

大垣 晴香

コロナウイルスの感染拡大に伴って、年末年始はいつもと違って静かな年明けとなりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は石巻事務所で昨年中に取り組んだ出来事を中心に作成いたしました。昨年はコロナ禍ということもあり、中止や延期になる会議・集まり等も多くありました。中々顔合わせをできないような状態であり、とてももどかしい思いをすることもありましたが、今回作成した記事にもあるように、感染症対策を行いながら市内関係機関の集まりへの参加や研修等を行うことができました。顔を合わせる、直接話ができるという大切さを実感しております。

本年も感染症対策を行いながら、より一層仕事に精進して参ります。皆様くれぐれも体調にお気をつけてお過ごしください。